



「生徒会役員交流会と連合作品展」

校長 門脇 伸也

本校の児童・生徒の活動や作品をたくさんの区民の方へ、ご覧になっていただける機会があります。今回は2つの催しについて取り上げてみます。

1つ目は、区内公立中学校10校と新宿養護学校の生徒会役員交流会です。日時は、12月23日(金)の午後2時半から4時半まで教育センター大研修室にて開催されます。教育長をはじめとした各教育委員さんと各課の課長などが出席して大体的に開催されます。新宿養護学校は「生徒会」ではなく、小・中学生からなる「児童・生徒会」として活動しており、その中から中学部の役員が参加します。

この交流会の実施に際しては、本校の生徒が参加できるように、いくつかの配慮がされています。まず、本校は、厚生労働省が言うところの「ハイリスク施設」に準ずる扱いとされており、集合せずにオンラインでの参加となります。次に、参加した生徒の下校手段であるスクールバスの乗車時間を確保するため、一番初めに本校の紹介がされます。この日は、特別に15時35分発のスクールバスと医療的ケア専用通学車両を用意して、生徒が参加できるようにしています。このため、本校の生徒は生徒会役員交流会の最後までは参加できませんが、担当の教員と一緒に自己紹介や学校の紹介、生徒会の活動紹介について、しっかり準備をして発表します。ほどよい緊張と達成感を得られることでしょう。

また、授業を通して「SDGs (エスディージーズ)」という言葉を知り、「歯ブラシリサイクル」の活動に取り組んできたことで、環境保全に対する意識は確実に上がってきました。さらに、本校の生徒に限らず、他校の生徒会役員にとって、新宿養護学校との交流会を通して「インクルーシブ教育」という言葉の意味や、その認知度も確実に上がることでしょう。この生徒会役員交流会の背景に新しい学習指導要領で言うところの「各学校において、障害のある子どもとない子どもとの交流及び共同学習について組織的・計画的に行うよう配慮すること」があり、回を重ねること新宿区の区民にとっての知の財産となることを期待します。

2つ目は、連合作品展です。1月21日(土)から2月2日(木)の期間で、新宿文化センター地下1階にて開催され、本校の児童・生徒の作品も展示されます。2年前に、本校の作品を見た区内の小学校の校長先生が、副籍で交流のある児童の作品を自校の児童にも校舎内で鑑賞させたいと申し出がありました。副籍交流は、新宿養護学校に通う児童・生徒が、自宅近くの小・中学校にも籍を置き、地域の児童・生徒の一員として学び合う制度であり、新宿区では、全ての児童・生徒に副籍交流を推奨しています。



本校の児童・生徒も、通常の学級の子どもたちと一緒に授業やレクリエーションを楽しんだりする中で、子どもたちは大人が思った以上に、互いに打ち解けて接していきます。子どもたちは一緒に過ごすことで、様々な障害も個性の一部であるという意識が自然と身に付いていきます。本校が目指すところは『交流』ではなく、日常的な『共生』でありたいと願っています。「インクルーシブ教育」という言葉の意味や、その認知度を確実に上げていくためにも、コロナ禍での本校と副籍校との交流の有り方に工夫が求められています。

本校としての「With コロナ」の有り方の模索は、これからも続けてまいります。今後とも本校の教育活動にご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

最後になりますが、益々寒さが厳しくなってまいります。保護者及び関係機関の皆様には、新しい年を元気で迎えられるようご自愛ください。

「道徳授業地区公開講座を終えて」

小学部

12月9日(金)に、道徳授業地区公開講座を行いました。道徳は挨拶の仕方や友達の関わり方といった「望ましい行動」を練習する為に行うものではありません。「なぜ挨拶をするのか」、「どんなことに対する感謝なのか」といったことを、体験などを通して考えて、児童・生徒の内面の成長を促していくことを目的としています。小学部1組では児童が友達と遊ぶ中で関わり合いを、2組では実際に自分で考えた挨拶を行うことで挨拶の大切さを感じ、3組では誰にどんな感謝の手紙を書くかをよく考えた上で、手紙を書くことができました。中学部では「人権標語」を考えることを通して、自身や他者の人権について考えることができました。

今回学んだことを授業の中だけではなく、地域や家庭での生活に活かせるようにしていきます。



「中学部1・2年校外学習」

中学部

12月1日(木)に、中学部1・2年校外学習に行ってきました。午前中は「市谷の杜 本と活字館」に行きました。歴史ある施設の中で「テキンでしおり作り」や「箔押しメモ帳作り」の体験や活版印刷機が動く様子などの見学をしました。できあがった成果物を見て満足そうに笑っている生徒や、実際に活字を触ってみて、はっとした表情をしている生徒もいました。その後は「シャロームみなみ風」で昼食を食べ、午後は「漱石山房記念館」へ行きました。事前に「夏目漱石」について学習していたこともあり、生徒たちが興味をもって見学している姿が印象的でした。

今回は、全て新宿区内の施設を活用した校外学習となり、充実した一日にすることができました。



「進路に繋がる中学部作業的活動の紹介」

支援部

中学部では、様々な授業の中で作業的な学習を取り入れています。今回は、その中の一つである「手芸部」について紹介します。手芸部は中学部女子3名で構成され、課題別学習の時間に「リボンレイ」や「タッセル」を作製しています。

このような学習の成果として、素敵に仕上がった多くの作品を本校教職員に「販売」しました。品物を喜んで購入する教職員の姿に、中学部女子クラブ員は、働くことの楽しさを感じることができたのではないかと思います。

今回の売り上げ収益は、1月下旬に「青い羽根募金」に寄付する予定です。本活動は、社会貢献の一旦を担うという大変意義のある活動にもつながりました。



「小6移動教室」

小学部

11月18日(金)に、「出会いと学びのテクノロジーツアー」をテーマに、銀座を拠点に「アートアクアリウム銀座」、「分身ロボットカフェ DAWN ver.β」、「図鑑ミュージアム」に行き、様々なデジタルコンテンツに触れてきました。

「アートアクアリウム銀座」は、様々な種類の金魚が優美に舞い泳ぐ水槽作品を、光彩や音楽、香りで演出した空間で、光っている水槽を見て児童たちは、大喜びで鑑賞していました。

「分身ロボットカフェ」は、外出が難しい方が分身ロボットをパイロットとして、遠隔操作しサービスを提供しているカフェです。パイロットの方に、好きな食べ物や好きなスポーツ等を質問して、会話を楽しみました。

「図鑑ミュージアム」は、図鑑の中でしか見ることのできなかった生き物たちの息吹を体感できる体験型施設です。児童たちは、ライオンやパンダなどが現れると、大興奮していました。

現代の様々なテクノロジーに触れ、児童全員が興味や関心をもち、素晴らしい学びができた移動教室になりました。



研究部より

小学部

つくし・ばらグループの総合的な学習の時間ではタブレット端末を活用し、校内外で働く人々にインタビューをして、記事にまとめる授業を行いました。生花店では、子供達が「おすすめの花は何ですか」などと聞き、タブレット端末のカメラを使って花の写真を撮ることができました。インタビューの後は、プレゼンテーションソフトを使って調べたことを記事にまとめました。子供達は、タッチペンやキーボードで文章を作成して調べた内容をまとめ、友達や教員に対して発表することができました。文字の大きさや色、写真のレイアウトなどを自由に工夫することができ、納得いくまで何度も簡単にやり直せるところが、タブレット端末の良いところです。子供達が自分の考えをまとめ、他者に伝える道具としてタブレット端末を活用する機会を、今後も様々な場面で設定していきたいと考えています。

